

平成30年度(2018年度)施政方針 15年後も30年後も 選ばれ続けるまちへ



町田市長 石坂丈一

平成30年(2018年)第2回市議会定例会が開会され、石坂市長は6月7日の本会議で施政方針を表明しました。

ここでは、その概要を掲載します。全文は町田市ホームページでご覧いただけます。

☎企画政策課 ☎724・2103

2018年度の市政運営の視点

多くの自治体が人口減少に直面する中、国は、働き方改革を進めることで労働生産性の向上やワーク・ライフ・バランスの実現を目指しています。

町田市の状況に目を向けると、近年、年少人口の転入超過者数が全国で上位に入るといった嬉しいニュースがある一方で、出生率の低さや20代の市外転出の多さも目立っています。

国の働き方改革と同様に、町田市においても、子育てと仕事を両立で

きる環境づくりや、まちの魅力を向上させる取り組みを進め、積極的に若年層の定住促進に乗り出していく必要があると改めて感じています。

そして、住む場所として実際に町田市を選んでいただいた方に、暮らしやすさや便利さを実感していただけるよう、あらゆる面で他自治体以上の行政サービスを提供することで、15年後も30年後も選ばれ続けるまちを目指します。

2020オリンピック・パラリンピックではパラバドミントンのインドネシア代表のキャンプ地に内定しました。

キャンプ期間中は、競技団体と協力して、スポーツを通じた国際交流に取り組んでいきたいと考えています。

暮らしやすいまちをつくる

これから先のまちづくりはすべて、多摩都市モノレールの延伸を前提とするため、新たに「多摩都市モノレール推進室」を立ち上げ、その推進体制を整えました。今後は、関係機関との協議を加速させ、延伸ルートや中間駅の位置など、事業計画の内容を着実に固めていきます。

町田市の東の玄関口である鶴川駅周辺については、北口交通広場の拡張整備に具体的に着手し、都市計画変更と予備設計を進めます。

そして、「南町田拠点創出まちづくりプロジェクト」については、2019年秋のまちびらきに向け、鶴間公園の整備に着手しました。

まちの中心部分である「(仮称)パークライフ・サイト」についても、子どもクラブやミュージアムなど多機能が複合するエリアとして、施設計画を具体化していきます。

また、相原駅周辺のまちづくりでは、町田街道の立体交差化工事に備え、相原駅東口への新たなアクセス路の整備に向けた測量・調査・設計を行っていきます。

本年3月に策定した「熱回収施設等の周辺施設整備基本構想」では、小山田桜台側に位置する池の辺り分場の整備に向けた基本設計に入るとともに、健康増進温浴施設の基本設計にも取り掛かります。



多摩都市モノレール

2018年度の主要な取り組み

将来を担う人が育つまちをつくる

2018年4月1日時点の待機児童数は146人で、現在の形で集計を始めた2001年以降最も少ない人数でした。そのうちの9割以上を占める0歳から2歳の待機児童を解消すべく、南地区・町田地区を中心に小規模保育所の整備などを進め、2019年4月の待機児童ゼロを目指します。

また、放課後子ども教室「まちとも」の実施校数を増やすことに加え、小山中学校区や鶴川第二中学校区に子どもクラブの整備を進めるなど、子どもの居場所づくりも

着実に進めていきます。

学校教育では、次期学習指導要領を先取りし、今年度から市内の全小学校で英語の教科化を実施しています。

また、外国語指導助手の増員等を図り、授業以外でも児童が英語に触れる機会を増やすことや、玉川大学と共同開発した独自カリキュラムを生かした町田市ならではの英語教育を推進することで、「英語教育で選ばれるまちだ」を実現します。

安心して生活できるまちをつくる

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる環境づくりに取り組むため、本年3月に第7期町田市介護保険事業計画を策定しました。

この計画に基づき、介護人材の育成支援や、アクティブシニアの就労支援などを行っていきます。

また、地域の文化活動の拠点として利用されてきた玉川学園コミ

ュニティセンターについて、老朽化が顕著であることから、建て替えを進めていきます。施設規模を拡大して、新たに地域活動室等を設けるとともに、駅からのアクセス向上とバリアフリーに資する「(仮称)玉川学園前駅デッキ」を整備することで、より多くの方にとって利用しやすい施設にしていきます。

賑わいのあるまちをつくる

観光、文化芸術、スポーツというそれぞれの視点から整備中の「3つのもり」について、薬師池公園四季彩の杜では、2020年度の西園オープンを目指し、農産物直売所やカフェを備えた「ウェルカムゲート」を整備していきます。

芹ヶ谷公園芸術の杜では、公園北側の都営住宅跡地一帯を芝生広場へと整備します。また、(仮称)国際工芸美術館の建設も進め、芹ヶ

谷公園を「芸術の杜」の名にふさわしい場所としていきます。

そして、野津田公園スポーツの森では、北側の拡張区域に人工芝のグラウンドやテニスコートを整備するとともに、陸上競技場観客席増設に向けた実施設計と造成工事に着手します。

また、このたび町田市は、ラグビーワールドカップ2019でアフリカ地区代表のキャンプ地に、東京

行政経営改革

生産性向上の取り組みでは、他自治体との比較分析に基づく事務事業見直しを継続して実施し、新たに住民基本台帳業務などの分野を対象を広げていきます。

次に、行政サービス向上と職員の意識改革を目指し、「見直そう! “伝わる日本語”推進運動」を開始します。専門用語を使った通知文等について、市民視点に立ち、内容を分かりやすく伝えられるよう見

直していきます。

最後に、公共施設における行政サービス改革の柱となる「公共施設再編計画」を7月に公表します。この計画は、38年間を計画期間とし、公共施設の配置の最適化を図ることを目的としています。2018年度からは、今後9年間に取り組む内容をまとめた「短期再編プログラム」に基づき、公共施設再編の第一歩を踏み出します。

むすびに

これからの4年間は、町田市基本計画「まちだ未来づくりプラン」の集大成の期間となります。

多摩都市モノレールの延伸や中心市街地の再開発など、長期的な対応が必要な取り組みについても、しっかりと向き合い、将来への道筋をつ

けていきたいと考えています。

そして、目標を着実に達成していく姿を、市民の皆様をはじめ、多くの方にお示ししていくことで、15年後も30年後も選ばれ続けるまちを目指します。